

ニーズレター

発行日 2019年10月28日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

秋号



仏生山大名行列

.....

もくじ

○ 巻頭言	2
○ 利用者の声	3
○ 事業所探訪	5
○ 新人ホームワーカーのあいさつ	7
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8

家計管理を考える

副理事長 鍋谷 健一

金銭や生活上の問題は病状を悪くする

誰でも、お金に困ったら気が滅入るものです。

借金問題は司法的な解決（調停とか破産とか）をすればその人の問題は解決する悪いのは高利貸しや金融機関だと単純に考えていましたが、例えばせっかく破産した後も生活が再建できなかつたり再度の借金をしたりで、司法的解決直後の喜びの顔が次第に曇っていくのを何度も見てきました。生活改善なくして金銭問題は解決しないのは当たり前かもしれません。

診察室でお医者さんに症状を話し、薬を処方していただきながら、その時の「辛い問題」（例えば家族問題や経済問題や長時間労働などの職場での悩み等）を打ち明けられずに診察室を出ていったといった話を金銭問題を抱えた人たちからよく聞かれます。「辛い問題」は病気の原因になったり、症状を悪化させる原因となったりしますが、診察室でその問題が話題にならないのは何故でしょうか。「病気以外の問題を医者に話してはいけないと思っていた」とよく聞きます。「個人的な問題だから話せない」とも。

家計管理で生活改善

解決方法の一つが家計管理だと思います。破産をきっかけに家計簿をつけ始め数百万円貯め自立に向かって人、借金をしなくていい生活を家計簿から見出した人、日常生活自立支援事業の日常的な金銭管理サービスを利用し衣食住は何とか確保できた人など、生活の自立に向けた営みがいくつも生まれています。多くの方が健康の回復にもつながっています。人って変わるものだなあと羨ましく感じることもあります。

どのケースにも共通するのは、お金の問題を個人の問題にしないで相談しながら解決していくシステムを持っていること。ちょっとした相談相手がいると本当に助かります。相談相手は転ばぬ先の杖と信じています。



■利用者からの声

体 験

空とぶ猫

某スーパーで食品の品だしの仕事をしてみた。

スーパーに買い物に行って品だしほど楽そうな仕事はないという安易な考えが大きな間違いだった。

入社した会社の面接で、どの部署で働きたいか聞かれたので、品だしの部署で働きたいと即答した。

「朝早いけど大丈夫ですか？」と聞かれた。「大丈夫です」と答えた。

面接の翌日に採用の連絡が入った。社員教育があるので指定日に来るよう言われた。社員教育当日、機密マニュアルを渡され、それに沿って社員教育が進められた。最後に早朝品だしの部署のリーダーと初顔合わせと会社内の説明、早朝品だしの出勤日に持ってくるもの、何時出勤かなど初仕事に向けて話をした。

早朝品だしは、とにかく朝が早い、朝5時50分には、制服に着替え朝礼が始まる。朝5時50分という事は通勤時間、制服着替えの時間など加味してもグループホームを5時15分には出ないといけない。

私は飲料、ベーカリー（パン）の品だしを任された。

飲料でも賞味期限を見て古い商品を前の列、新しい商品を後の列に並べなおさないといけない。飲料、ベーカリーでもすごい数の種類がある。私を苦しめたのが商品の種類の数。このことがストレスになって、会社を辞めたといっても過言ではない。先輩社員がテキパキ商品を陳列していくのと、私がモタモタ仕事するのを比較してしまったのだろうと思う。

品だしの仕事をしていると時間との戦いなので、マイペースでは仕事にならない。私は5時間働いていたが、5時間のうち6時から開店の9時までの間が勝負。その3時間の間に、不足の商品を品だしをしないといけない。7時にはセンター（トラック搬入口）にどんどん商品が届く。リレー形式で皆で協力して店内に入れていく。私を含め皆必死で働いていた。

今回の仕事で思ったことは、障害者は生活保護を貰って生活していけるが、健常者の人たちは逃げ道がない。働く理由は人それぞれだと思うが、「働かないと生活ができない」「守っていくものがある」「ローンがある」「キャリア形成のため」安易に仕事を辞めれない。短い期間だったが仕事をする事で普段考えない色々な事を考える事ができた。

仏生山での通勤の思い出

しろねこ宅急便

私は、仏生山に住民票を移して満7年になります。それまではほぼ高松中心地で生活をしていました。仏生山に住んで7年、作業所を含め転職を4回経験しました。今回お話を広げるのは過去と現在についての通勤話です。

私は、仏生山に住んでから4ヶ月後に仏生山からまだまだ先の高松郊外で職に就きました。そこは仏生山から綾川駅側に下り4駅先の岡本という辺鄙な無人駅です。無人駅の外はボコボコのロータリーと雨ざらしの自転車置き場しかありません。そこからは、少しの家と田んぼ、多く囲まれた畑、大きなため池しかない畦道を30分徒歩を挟んで通勤していました。風情といえば、飛んでいる鷺、警戒心のないサギ、カラス、カエルの鳴き声、鈴虫の鳴き声、冬は街灯もない景色で17時を過ぎると辺り一面真っ暗になる通勤でした。

そんな生活を転職という形で移ることになり、2つ目の職業に就きました。会社の場所は今度は仏生山駅から1つ目の職場とは真逆に北へ東へ、乗換駅あり11駅、高田駅(香川医大付近)周辺へ職を移ります。こちらは朝が早く朝7時から家を出発、原付で30分かけて会社へ、会社で朝食を取っていました。こちらも帰りは高田付近に街灯はなく帰宅の遅い夕暮れは大変でした。

3つ目の職場は、今度は家からたったの原付で5、6分、由緒あるお寺、法然寺横の事業所で苗、花屋の花を育てたり、公園花壇作業をしていました。

そして今現在、サスケ設計工房高松の職に就いています。現在の大まかな通勤は、朝9時に家を出て、駅まで自転車7分、仏生山から上りで3駅、栗林公園駅に到着、そこからレンタルサイクルで、20分弱かけて木太町の勤務地を目指して走ります。最後の通勤ですが通勤先の風景がようやく7年かけて住み慣れた景色高松に戻ったような気がします。

7年の仏生山でのアパートの個室から自分の知らない香川の見知らぬ土地に関れたことで様々な職にチャレンジしたこと含め、勤務先の変化があったこの7年は仏生山という香川の中ほどの地域に住まなかったら味わえなかったでしょうし、人生経験として通勤の中にも多くの経験を学びました。

最後になりますが今就いている仕事について簡素に書きます、以前働いていた園芸の作業から一転してパソコンを扱った頭脳労働の職についています。これは私の心境の変化もあったんですが、以前働いていた会社から5分位で通勤できる作業所

から、木太町にあるサスケに向かうまで1時間近く通勤にかかることに「大丈夫？」と幾度かモニタリングを重ねました。「確かに通勤は大変かもしれないそれでもしたい道に進む」ということで今の仕事と通勤の毎日を送っています。

事業所探訪

サスケ設計工房 高松におじゃましました

増田 周作

今回、高松市木太町にある就労継続支援A型のサスケ設計工房高松（以下、サスケ工房という）を訪問してきました。グループホームからサスケ工房へ2名の方が働きに行っています。

サービス管理責任者の中原さんを中心に、職員、利用している方にサスケ工房についてお聞きしました。



サスケ工房は、2012年9月に『関わる全ての人の可能性を創造し、常に進化を続ける』を理念に掲げ、愛媛県で事業をスタートしました。2015年10月に高松市で事業所を開所し、今年で丸4年なる就労継続A型事業所です。白石設計という親会社が請け負った鉄骨製作図面のチェック作業の一翼を担っています。大きな病院や競技場などの図面も取り扱うことがあるとのことでした。

障害のある方が、働きながらコンピューターを使った設計支援システムである
キャド
「CAD」を研修で学び身に付けていくことができます。そのCADを用いて、設計図面チェック行うことが主な仕事です。

現在、定員は20名ですが、在宅の方を含めると約30人ほど利用者がいて、精神障害がある方が、8割ほどを占めています。



一旦、業務を覚えてしまえば、在宅で業務をすることができます。その場合、1週間に1日程度通所してくるか、職員が自宅を訪問するという形で、業務を継続していけます。

また、テレビ電話を利用することによって、日常的に顔を見ながらのやり取りも可能とのことでした。

事業所内では、CADの習得状況により3つの部署に分かれていました。

- 最初にCADを習得する部屋

基本的な使い方を学ぶ部屋

パソコンの中にある課題をこなしていくことで、使い方を学んでいくことができ、実際の業務に向けての準備をしていくとのことでした。

右の写真のような鉄骨の模型を2人一組で作り上げていくという課題もあります。



- CADの基礎研修が終了した方の部屋

基礎的な使い方を習得したかたの部屋

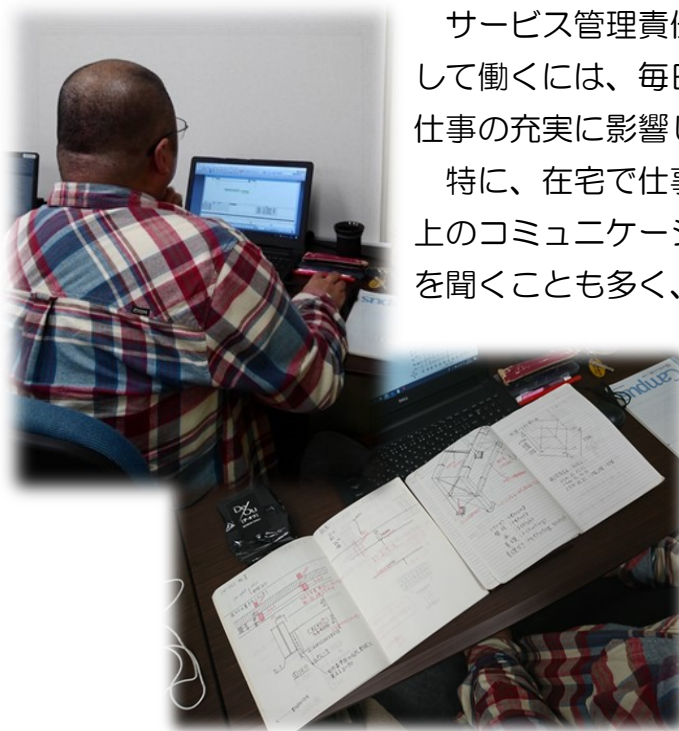
過去にチェックを済ませた図面を用いて、実際の仕事に取り掛かる準備をするところでした。

- CADをマスターした方の部屋

研修期間を終えて、実際の仕事に取り組まれている方たちの部屋

実際の設計図面のデータをくまなくチェックをして数字や記載に矛盾や間違いがないか確認していく作業をこなしていました。

グループホームに入居しているAさんは、今まさに実務に取り掛かる準備をしているところで、Aさんが勉強のためにまとめたノートを見せてもらいました。とても丁寧にまとめられており、細かな作業であるとともに、彼の几帳面さを改めて知ることが出来ました。



サービス管理責任者の中原さんとの話の中で、継続して働くには、毎日の生活が大切で、安定した生活が仕事の充実に影響しているとのことでした。

特に、在宅で仕事をする機会が増える人には、仕事上のコミュニケーションを取るとともに、生活の悩みを聞くことも多く、グループホームの職員がいて支えてくれていることは、仕事の安定にもつながっているとうれしいお言葉も頂きました。

書ききれないくらいたくさんのお話をお聞きし、大変参考になりました。サスケ工場の皆様、ご協力ありがとうございました。

■ 新人ホームワーカーのあいさつ ■

ホームワーカーになって目指すこと

竹 田 潔

7月26日付で、ホームワーカーとして、採用されました。昭和36年生まれで、今年で58歳になってしまいました。妻と子供2人の4人家族ですが、現在 子供2人はそれぞれの生活を営んでおり、今では夫婦水入らずの生活を楽しんでいる最中です。本当のことを申しますと、今の生活は楽しいのだ、と自分に言い聞かせながら過ごしています。

好きなことは、と言いますと、スポーツ全般なのですが、この年になってプレーすることは出来ませんが、観るのは今でも大好きです。私の中でのベスト3は、アメリカンフットボール、ラグビー、野球です。とてもスリリングでエキサイティングなアメリカのプロフットボールでは、シーズン最後のスーパーボール、ラグビーでは日本で9月20日より開催のワールドカップ、野球では夏の甲子園などは特に見逃すことはできません。

この様な私が、ホームワーカーとは、いったい何をすれば良いの、という疑問を持ちながらグループホームネット香川に応募し、面接を受けました。入職後、事務所での座学での研修を受け、その後 春日、百間町、宮脇の3つのグループホームにて、先輩ホームワーカーの元で研修を受け、ホームワーカーの役割について勉強させていただきました。その時、何人かの入居者の方々とも、お話しすることが出来、楽しく有意義な時間を過ごさせて頂きました。

ビアーズ仏生山では、それらの経験を生かし、又日々勉強を積み重ねて、入居者の方々が、より自立した生活を楽しめる様、バックアップ出来たらという思いでいます。その為に入居者の方々からより信頼して頂けるホームワーカーを目指し、皆様の今後の目標、将来の夢に向かって、ほんの少しでも関われたらとの思いでいます。どうか、今後共よろしくお願い申し上げます。



事務局だより

事務局 増田 周作

1年はあっという間に過ぎ、今年もあと残すところ11月と12月の2か月となりました。秋は、お祭りなどの行事があり、太鼓の音などにぎやかになります。

だんだんと日が短くなり、寂しい気分にもなるのがこの時期かと思います。

昨年度末にホームワーカーが退職し、今年度は少ない職員数でスタートし、カバーのため理事、職員が一丸となって、この局面を乗り越えるべく日々活動が続けています。

5月、7月と新たなホームワーカーが入職し、新人研修も終えて支援体制も少しずつ整い、入居者とホームワーカーの関係性ができつつある状況です。

事務局も10月から1名、休職となり慌ただしい日々を過ごしています。

入居者、関係者にご不便をおかけすることがあるかと思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。



編集後記

朝日を浴びる20分間ウォーキングを始めて4カ月が経ちます。歩き始めたころは、水に植えられた稲の苗があっち向きこっち向きで、生き付くのかと心配したものです。しかし、日増しに天に向かって真っ直ぐ伸びる姿にはホッとすると同時にある一種の強さを感じたものでした。

今回、秋号のニーズレターの発行に伴い、入居者の方から原稿をいただく機会がありました。情景が手に取るように分かる文章表現には、彼らのきめ細かな観察力と感性のすばらしさを垣間見ることができました。そして、同時に将来に向かって伸びようとする力強さも感じました。誰もが稲のように実りのある人生を送ることができますようにと念じつつ私も歩いて行きます。（天満）

（発行）特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955